

授業概要

授業では中国を中心としたアジア諸国の現実分析がなされる。中国は1978年の改革開放以降、積極的な外資導入による経済発展を目指した。外資の導入による輸出主導型経済の発展は、やがてアメリカに次ぐ世界第二の経済大国としてその存在を確固たるものにした。それだけではない。経済のグローバル化に伴い、インドやベトナムなど、アジアを中心とする新興諸国の経済発展も目覚ましいものがある。名目GDP1兆ドル以上の国は中国、日本、インド、韓国の4か国で、この4か国でアジア全体の8割以上を占めている。授業では、アジアのこの4か国に視点を置き、そこから日本のあり方を考えたい。

授業では、「日本が東アジアの中で生き抜く」上での経済の最重要課題は何かを講義する。「中国を知らずして日本の繁栄はない」というキーワードを用いる。

授業計画

第1回	イントロダクション・全体の概要と目的を述べるとともに、授業内容について解説する。
第2回	中国の市場経済と基層社会について講義する。
第3回	中国資産証券化市場の新展開について講義する。
第4回	一帯一路構想下の中国インフラ企業の躍進とPPP
第5回	中国経済への類型論的アプローチ
第6回	中国モデルとは何かについて講義する。
第7回	ベトナム経済概観について講義する。
第8回	現代ベトナムビジネス環境とビジネスの実行について講義する。
第9回	ベトナムIT産業の発展とグローバル化について講義する。
第10回	インドEC市場の成長とユニコーン企業の台頭について講義する。
第11回	韓国・危機と改革について講義する。
第12回	ネパールの農業支援を通して、国際協力を考えるについて講義する。
第13回	アジア・北海道間の経済・国際交流について講義する。
第14回	日本における外国人労働者問題について講義する。
第15回	中国・アジアによる世界的産業再編とその社会的意味について講義する。
第16回	筆記試験。

到達目標

1. 受講生がアジア諸国の経済を分析する方法を学ぶことを支援することが、本授業の狙いである。受講生が日本企業における「開発は日本、生産はアジア」という一元的なグローバル戦略の変化について知って貰うことを目標としている。
2. 中国、ベトナム、南アジアを中心に経済・地理・文化・歴史的内容を理解することが目標である。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、日本とアジア諸国の経済一体化の進展について、その基礎知識を学ぶ。

履修上の注意

この授業は、講義形式を中心とするが、受講者の主体的な参加を重視する。この授業で出るアジア地域の経済実態や課題について、質問や議論に積極的に取り組んでほしい。試験及びレポートの際に自筆のノートを参照するので、授業を欠席せずにノートをよくとってもらいたい。授業開始後30分以上の遅刻は、欠席扱いとする。

予習・復習

授業のレジュメを把握し、参考書の該当箇所と新聞・WEBサイトのアジア経済に関する記事をよく読むこと。配布した参考資料を読み、授業時に示す課題について回答レポートを作成すること。

評価方法

学期末試験 70%、授業内レポート 20%、受講態度 10%。

テキスト

- ・参考書名：『アジア経済の現状とグローバル資本主義』
- ・編者名：SGCIME（エス・ジー・シム）
- ・出版社名：お茶の水書房
- ・出版年（ISBN）：978-4-275-02158-8